

# 新年度予算、保育料軽減も医療、介護費は増加

知らなきや損する

2018年、新年あけましておめでとうございます。今年も知って得する、知らなきや損するお金の知識を皆さまにお届けしたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

昨年12月22日、政府は2018年度国の予算案を閣議決定しました。国の基本的な予算案は97兆7128億円、6年連続で増加しています。

この予算案を、1兆円を10万円に換算して、家計(収入・支出)に例えると図のようになります。

一家の大黒柱の年収は、景気回復を受けてバブル期以来の高い収入が見込まれ、590万円と昨年より13万円増加。一方、生活費は589万円で5万円増、生活費の半分以上の329万円が、医療や年金、介護などの費用(社会保障費)です。収入のほとんどが生活費に使われているわけですが、生活費以外にも子への仕送り155万円、借金返済233万円もあって家計は大赤字です。不足額の336万円は、今年も借金で賄うしかなく、2018年度の借金残高(国債残高)は8827万円(882.7兆円)と年収の約15倍になり、年収増でも節約は進んではいません。

団塊の世代が全員75歳以上になる2025年を控え、毎年増え続けている社会保障費の伸びの抑制は、国として大きな課題です。私たち家計にも社会保険料や税金の負担が増えたり、給付が削減されたりなどで影響は続きそうです。

2018年度の予算で、私たちの家計はどう

2018年度の国家予算案を家計に例えると (1兆円を10万円に換算、換算後の1万円未満は切り捨て)

|  |   |
|--|---|
| <b>年収 (税込)</b> 590万円 ↑<br><b>収</b><br>妻の副業 (税外収入) 49万円 ↓<br><b>借入</b><br>借金 (国債発行) 336万円 ↓<br>収入合計 977万円 ↑ | <b>借入金返済 (国債費)</b> 233万円 ↓<br><b>支</b><br>年金・医療費など (社会保障費) 329万円 ↑<br>子への仕送り (地方交付税) 155万円 ↓<br>教育費 (文教・科学振興費) 53万円 ↓<br>修繕費 (公共投資) 59万円 ↓<br><b>出</b><br>防犯対策費 (防衛費) 51万円 →<br>その他 93万円 ↑<br>支出合計 977万円 ↑<br><b>ローン残高 (国債残高) 約8827万円 ↑</b> |
|--|---|

変わるのでしょうか。医師の診察料が0.55%引き上げ、薬価は1.45%引き下がります。また、紹介状なしで大きな病院にかかる際の定額負担についても「病床500床以上」の規模の見直しで対象拡大が予想されます。介護に関しても利用者や保険料の負担が増える見通しです。

一方、子育て関連では、幼児教育の段階的無料化に向けて、年収270~360万円世帯の保育料が軽減されます。低所得者の一人親家庭を支援する児童扶養手当は、全額支給する基準年収を130万円未満から160万円未満に引き上げ、返済不要の奨学金制度など低所得者への子育て支援は増えるようです。

少子高齢化と国債残高の増加が進む日本の家計(財政)を考えると、私たち国民の負担増がますます予想されます。今年も家計をしっかりと管理し守っていきましょう。



暮らしのマネープラン相談センター・所長  
サーティファイドファイナンシャルプランナー 高橋 昌子

## あなたの暮らしと財産を守るパートナー

■時間相談 …… 1時間まで3000円 2時間まで5000円

教育資金・老後資金・相続・住宅ローン・保険の見直しや商品選択、確定拠出年金など何でも相談できます

■マイホーム資金・住宅ローン相談 ……………… 3万円

無理のない予算額、頭金や購入時期、最適な住宅ローン・生命保険・火災保険など、マイホーム購入にまつわるマネープランについて何でも、マイホーム購入まで時間を気にせず相談できます

■退職資金・マネープラン相談 ……………… 3万円

退職後の手続き、年金や保険、退職資金計画など退職後の生活設計について何でも、時間を気にせず相談できます



暮らしのマネープラン相談センター 金沢市此花町3-2 [ライブ1ビル1F]

☎076-232-2038

要予約

(株)FPサポート研究所 <http://www.fpsl.co.jp/> ●平日/10:00~19:00 ●土日/10:00~17:00